①様式第４号－２（報告書）

※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：岡山大学大学院教育学研究科
※機構記入欄No. ：　-	セミナー名：【NITS カフェ　in　岡山】 主タイトル：コミュニケーション教育 副タイトル：演劇の手法を用いたワークショップ

テーマ：
次の４点を到達目標とし、その実現に資する取組として演劇的手法によるコミュニケーション教育を実施した。
①相手の話を聞き、理解し、自分の意見を伝えるというコミュニケーション能力を育成すること。
②教職員による児童生徒の理解と支援に関する外部知見とのつながりを保持すること。
③教職大学院学部新卒学生のキャリア感を深めること。
④教員研修を外部資源と連携して行うこと。

内容：
開催場所:岡山大学教育学部
日時：令和元年７月 23 日（火）13：50～16：20
参加者（担当者含む）：岡山大学教職大学院　教員　5 名　学生　22 名
一般教職員　7 名　　教育委員会　1 名　　合計 35 名
実施プログラム：
13：50　講師（平田オリザ氏）紹介・ファシリテータによる全体の流れ（事前→本日→事後）説明
14：00～15：00　ワークショップ演習
①「“仲間”づくり」
②相手とともに「身体」を動かす
③数字カードで「演じる」
　講師の指導で①～③を順に行った。その合間に、講師から各ワークショップの意図―ワークショップの目的の明確化と「ワークショップの自己目的化」への警鐘。参加者の「リアル」の尊重。導入としてのワークショップをどう教科の学習に結びつけるかの重要性。②は「協働」性の体感。③は同じモノに対しても各人が抱くイメージには違いがあることとその「すり合わせ」の困難性の理解ーの説明を受けた。
15：00～16：00　講義
　まず、新学習指導要領で明確化された新しい「学力」の考え方とその体現としての大学入試改革及びその先行事例が示された。それを受けて「何を学ぶか」から「誰と学ぶか」への転換の重要性が指摘された。さらに、岡山を含む日本の地域社会が抱える課題として「中央と地方の文化格差とそこから生じる学力差」について、次の 3 点からの分析があった。①家庭環境（SES）・②「非認知スキル」・③「身体的文化資本」。その上で、これらの解消の方途としての演劇的手法の可能性についての言及があった。
16：00～16：20　質疑応答　「演劇的手法」の可能性、評価について等の質問があった。

成果：
　参加者の 8 割が今回の研修について「とてもよかった」と答えるなど、全員が肯定的な評価であった。アンケートには「演劇と学校教育の関連性が理解できた」「身体的文化資本の差の存在は、岡山にいる私たちが考えるべき課題だ」「ワークショップで実際に動いたことで研修の意義を体感できたことがよかった」「教職大学院にいることで、平田先生から直接学ぶ機会を持てた」といった感想が見られ、肯定的評価の多さと相俟って、研修内容への満足度の高さとこの研修の目標が十分に達成できたことが窺えた。

アイディアや工夫したこと：
・ファシリテータと希望学生が事前・事後研修を受けることで、本プログラムの意義の深化と継続性を図ったこと。
・教職大学院生に事前に平田氏の著書を紹介し、本プログラムの導入として読むよう指導したこと。
・ワークショップ→講演の構成で、体得したことを理論づけて理解できるようにしたこと。
・質疑応答で学びの深化を図ったこと。

<写真・図など>　講師の平田オリザ氏

ワークショップ

ワークショップの意図の説明

講義の様子